

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 「がんという病気について学ぼう」
- 2 対 象 5・6年児童、教職員
- 3 専門医 鈴木 尚樹 医師
(山形県立中央病院)
- 4 実施月 11月
- 5 内 容(キーワード)
がんという病気について学ぼう
「がん」は特別な病気ではありません
とても身近な病気です



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

- (○)有効だった
()有効でなかった

<その理由>

*「がん」という病気について、たくさんのイラストや画像で説明してくださった他、医学用語も分かりやすく示してくださった。

②健康教育における校内連携について

- (○)有効だった
()有効でなかった

<その理由>

*6年生は、事前学習で「がん」について調べ学習を行った。その際に生じた子どもたちの「質問事項」を講演に取り入れながら、分かりやすく説明していただいた。また、道徳「命のかがやき」の授業で、作者の「がん」になっても諦めない心根から「命の大切さ」を学んでから臨んだことが有効だった。
*5年生は、文科省の「いのちを考える会」の資料を担当が読み聞かせして、子どもを亡くした母親の心情とその母のメッセージを伝えて臨んだことが有効だった。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

- (○)有効だった
()有効でなかった

<その理由>

*専門医と事前に講演内容を何度もメールでやり取りをして準備を進めた。校内で使用している「生活リズムカード」の画像を入れてもらう等、学校の実態に合わせた内容でご講演いただくことができた。

〔受講者の感想など〕

- がんの原因に生活習慣が関係していたことに驚いた。生活習慣を改めて、がんにならないようにしたい。
- HPVワクチンは、小学6年生から高校1年生までの女子が無料で接種できることを知ることでよかった。
- がんになるのは胃や肺くらいだと思っていたけれど、骨や他の臓器も発症することを知ることができた。
- がん検診を受けると、がんが早く見つかって早く治療することができるかもしれないということを大人になっても忘れないようにしたい。

〔教科やその他の指導との関連性〕

- 講演前に6年道徳で「命のかがやき」という学習を行った。「骨肉腫」を患い闘病生活をして「大切に生きる」ことをビデオメッセージとして残した少女に関する内容のもので、事前学習として効果的だった。

